

教職員自己紹介

松本 正雄(まつもと まさお)

社会情報システム学科・教授

平成15年4月に情報科学部に着任しました。それまでは、東京の大塚にある筑波大学大学院(社会工学系)に勤め、平成15年3月に定年となりました。

筑波大でも、またそれ以前に居たドイツのドルトムント大学や NEC においても、IT と経営の接点の問題を研究しました。このテーマは情報革命下における、IT と経営の共革新を扱うものです。馴染みが薄いかも

知れませんが、IT を革新するだけでなく、IT を活用してビジネス全般を改革しようとするテーマで、現在世界的にもすごい勢いで、この共革新が進行中です。

企業や行政などあらゆる社会組織にとって、取り組む必要性の非常に高いテーマの1つで、e-ビジネスと呼ばれたりします。企業だけでなく、自治体なども積極的にe-ビジネス化を推進しています。なぜなら、日本の経済活動は従来旺盛でしたが、今後はe-ビジネスにもっとしっかり取り組まないと優位性が維持できないことが明白となってきたからです。国や企業の将来にとって欠かすことのできない重要問題なのです。

この課題を解決してゆく鍵は、社会におけるビジネスの基本構造を価値創出やプロセスの視点から捉えて改革案を導く方法が開発できるかどうかにかかっています。情報科学部の卒業研究や大学院レベルの研究として、そうした改革手法やツールの研究や適用評価研究をして欲しいと願っています。なぜなら、研究成果が、大抵の組織において渴望されているからです。



成 凱(せい がい)

社会情報システム学科・助教授

三国志の大好きな日本の方々は「赤壁大戦」をよくご存知だと思います。私が生まれたのはこの戦いの主な戦場である中国湖北省であり、そこには今でも「文」赤壁や「武」赤壁など多くの遺跡が残っています。高校時代は「文」赤壁の所在地である黄冈で三年過ごしました。

1984年南京大学計算機科学部に入学し、1988年大学を卒業してまた故郷の湖北に戻りました。1991年中国で修士を取得後、武漢水利電力大学(現在武漢大学の一部)の講師として勤めるかわら日本への留学を準備し、国費留学生として選抜され、1999年に京都大学情報学研究科社会情報学専攻の博士後期課程に入学しました。2002年3月に博士後期課程を修了した後、さらに日本学術振興会ポスドクター研究員として選ばれ、京都大学において一年間研究活動を続けました。2003年1月から3月までNECアメリカ研究所(シリコンバレー)において客員研究員として共同研究を行い、4月に九州産業大学情報学部社会情報システム学科助教授として着任しました。

かつて、ファジー論理に基づく知能情報処理システムの研究開発を行っていましたが、博士後期課程に入ってから、データベース研究の第一人者と言われる京都大学情報学研究科教授上林彌彦先生のご指導のもとに、インターネットにおけるデータベース技術を中心に研究してきました。膨大なデータ量のウェブ情報を効率よく利用するために、利用の多い情報を高速メモリに蓄えながら、利用の少ない情報は低速の記憶装置に移すか、完全に捨てるかというような「忘却」機能を持つ新しい情報システムの開発に力を入れております。これまでの4年間、ウェブキャッシュ、ウェブウェアハウス及びウェブ情報検索をめぐる研究論文をおよそ20篇発表しました(詳しくはホームページ(<http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~chengk>)をご参照ください)。

担当科目は情報科学基礎演習(1年前期)、データ構造とアルゴリズムII(2年後期)、及びデータベース(3年前期)となっております。授業のほか、情報科学部ホームページ委員会や運用室において、ウェブサーバの管理にも手伝っております。

趣味として、歴史が大好きです。昔ながらの本が読めることは自慢しております。そのほか、太極拳にも興味があります。

